

「ARTIST CAFE FUKUOKA」は、アーティストと地域社会が交流する創造的なプラットフォームであり、施設内には、コワーキングスペース、ギャラリー、イベントスペース、カフェなどが併設されており、多様なクリエイターが集う環境が整っている。特に、アートとビジネスの融合を図る取り組みが特徴で、地域経済の活性化にも寄与している。

3. 視察内容の詳細

視察では、施設の各エリアを見学し、運営担当者から以下のような説明を受けた。

- アーティスト支援プログラム: 若手アーティストの作品発表の場を提供するだけでなく、ビジネススキル向上のためのワークショップも開催。
- アーティストインレジデンス: また、海外のアーティストを一定期間滞在してもらい制作から展示までを支援。海外アーティストによる文化振興にも寄与。
- 地域連携: 地元企業や自治体と連携したプロジェクトを推進し、地域課題の解決にアートを活用。
- 運営モデル: 公共と民間の協働による柔軟な運営体制で、収益性と社会貢献のバランスを実現。

4. 印象や気づき

「ARTIST CAFE FUKUOKA」は、単なるアート展示の場にとどまらず、コミュニティのハブとして機能していることが印象的だった。アートを通じた地域課題の解決や、多様な人々が交わる場としての可能性を強く感じた。また、カフェスペースの存在が人々の気軽な立ち寄りを促進し、日常的な交流の場となっている点も重要な要素であった。さらには文化振興課が実施主体ではなく観光課が主体となっているところが如何にも戦略的思考の福岡市らしさを感じた。

5. 和歌山市への活用提案

本視察を踏まえ、和歌山市においても以下の取り組みが有効と考えられる。

- アート×地域課題解決型プロジェクトの推進
- 市民が気軽に参加できるオープンスペースの設置
- クリエイターと地域企業のマッチング支援

博多 → 和歌山

2025年02月04日(火) 14:22 出発

【出発】博多

| 14:22 発(14番線)
| さくら556号
| 16:59 着(20番線)

【乗換】新大阪

| 17:13 発(2番線)
| くろしお21号
| 18:22 着

【到着】和歌山

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	E15 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 2 月 26 日

支出額

73,955 円 (按分率 %)

支出内容

旅費 (東京 3/18~19)、
参加費 (サステナブル・ブランド国際会議 2025 東京・丸の内)

備考 6600 + 275 = 6875

6875 + 67080 = 73,955

-X- 旅費請求内訳表 添付。



自動
サービス
コーナー

ご利用明細票

お取引日	取引店番/機番
07-02-26	234/12 I
お取引内容	
振込	お取引金額
	¥6,600
おつり	手数料(消費税)
	¥275
1万円 5千円 2千円 1千円 硬貨 円	
10:22 口座残高	¥8,088,645
りそな銀行	
平成第一支店	
普通	
カ) ロボット・イマクト シュウノウガ	
イコウ 様	

暗証番号の
お忘れ
生年月日や電話番号など他人が知り
得る番号を暗証番号に使用されている
お客様は、変更がたい変更ください。
<暗証番号はATMで簡単に変更いただけます>

トグ マサト 様

お名前

旅 費 請 求 内 訳 表

旅行先 東京都(特別職)		用 務 政務活動のため					旅行期間 自 3月18日 至 3月19日		日 数 1 泊 2 日	
月 日	旅行経路	路 程 km	鉄 道 賃			船 賃 航空賃	車 賃 実費又は定額	日 当	宿 泊 料	摘 要
			運 賃	特 別 料 両	車 金 急 行 料					
										定額表利用 A1451
										¥ 67,080 円
計			-	-	-	-	-			
航空機利用区間					公用車等利用区間					
請 求 書 下記のとおり請求します。 令和7年 月 日 創和クラブ 代表者 中村 元彦 様										
属 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印	
議 員	市長級				A1451 G1+(F1*2) 43,980 23,100	67,080	戸田 正人			
計		- 円	- 円	- 円	43,980 円	67,080 円	1 人			

整理番号	E15- 1
------	--------

令和 7年 3月 20日

活動報告書

創和クラブ経理責任者
芝本 和己 様

報告者名 戸 田 正 人

下記の通り、報告します。

日 時	令和7年3月18日~19日
場 所	東京都
目 的	サステイナブル・ブランド国際会議 東京丸の内 2024（東京国際フォーラム） 2日間にわたり合計8つの会議・シンポジウム・パネルディスカッションに参加し 学びや知識を深めてきた。
内 容	
別紙記載	

サステイナブル・ブランド国際会議

2025/03/20

レポート：和歌山市議会議員戸田正人

Day1.

3/18 (火) 東京国際フォーラム

13:45-15:00 (Hall D7-7F)

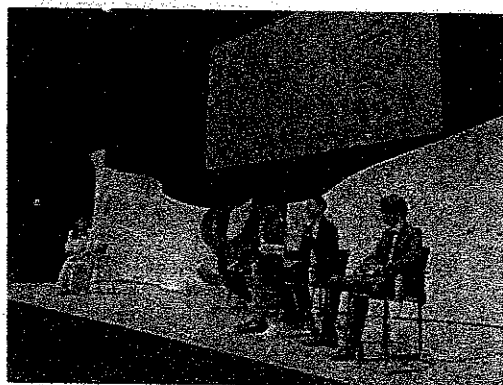
サーキュラーエコノミーに向けて、企業にはどんな対応が求められるのか

石山 アンジュ 一般社団法人シェアリングエコノミー協会 代表理事

久保 裕丈 株式会社クラス 代表取締役社長

田中 将吾 経済産業省 GX グループ 資源循環経済課 課長

村岡 秀俊 株式会社アシックス サーキュラーエコノミー推進部 部長



リニアエコノミーからサーキュラーエコノミーへと社会経済システムが移行する中で、企業にはどのような対応が求められるのでしょうか。資源調達や製品設計の段階から工程の見直しを図り、回収システムを構築するなど、従来の「生産から販売」に至る仕組みとは異なる、新しい枠組みが必要となる。

また、チャイナリスクやトランプリスクといった懸念はあるものの、資源循環型社会はすでに

グローバルに広がりを見せており、資本や経済は「コモンズ」としての性質を強めています。そのため、大きく後退する可能性は低いと考えられる。

経済産業省では、海外資源への依存を低減し、自立した経済を確立することが課題とされています。サーキュラーエコノミー市場はさらに世界規模で拡大しており、この分野を成長戦略の柱と位置づけています。(産官学連携の「サーキュラーパートナーズ」制度に基づく取り組みがその例です。) 資源循環を確実に実現できるプレイヤーの育成も推進されている。具体的には、サーキュラーパートナーズ制度には、企業 510 社、自治体 25 団体、大学 24 機関、関係団体 42 機関が参加しています。また、環境省は 200 億円を「上流工程」、経済産業省は 100 億円を「下流工程」に割り当て、再生材料の利用義務を生じさせることで、国内の循環型社会の実現を目指しているとのこと。

さらに、廃棄物産業を資源供給産業に転換し、サーキュラーエコノミーを支えるコマース市

場を拡充する取り組みも進行中です。本セッションでは、サーキュラーエコノミーへの取り組み事例や各企業の考え方、導入方法が紹介され、今後の課題が議論された。

例えば、「ものづくり大国」である日本では、サーキュラーエコノミー経済の確立に伴い、「モノが売れなくなるのでは」という懸念もある。しかし、自動車分野における認定中古車の事例では、買い替え時に高額な下取り価格を担保することで新車購入が促進されており、こうした仕組みが一つの解決策となることが示されている。

15:30-16:45 (Hall E1-2)

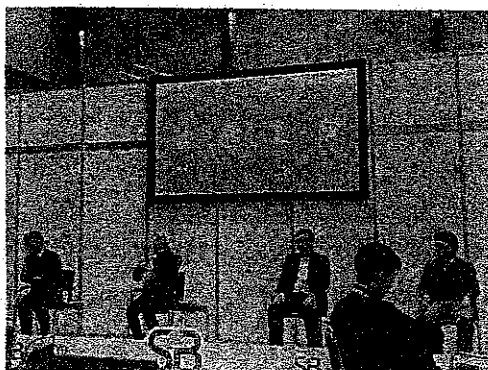
地域デザイン学会共催セッション

成川 忠之 東海大学 経営学部 教授

原田 保 一般社団法人地域デザイン学会 理事長

藤田 直哉 日本映画大学 映画学部 准教授

吉田 賢一 大和大学 政治経済学部政治・政策学科 教授/産官学連携コーディネーター



当学会は、地方創生から地域デザインへのコンテキスト転換を掲げる。地方は垂直構造(国・県・市町村)と水平構造(東京都を除く他自治体)という二重の構造を持つ。政治的に資源を集めて分配する現行の地方創生制度は、抜本的な改革が求められる。

原田氏は「社会貢献志向から経済価値志向への実践転換」を提唱する。社会貢献を目的とするのではなく、手段として位置づけることで、サステ

イナブルなブランド構築を目指す。

吉田氏は「VUCA 時代における行政と AI の連関性」を論じる。職員の政策形成能力の低下を課題とし、EBPM に基づく政策形成のためのデータ収集が困難である現状を指摘する。特に VUCA 時代における課題解決には、地域経営人材の育成が不可欠とされる。ICT を活用した政策デザインのスキーム構築が求められ、地域を企業体と見立てた経営管理による効率的な取り組みが必要となる。これらの人材を発掘・育成するためには、ネットワーキング力、マネジメント力、エンパワーメント力(関係者を巻き込み知識共有するプラットフォームを構築する力)が鍵となる。

地方自治体における AI 導入率は、都道府県および政令指定都市で 100%に達する一方、その他の市町村では 50%に留まる。これは人材や財力の不足が原因とされる。北欧で実施されているリビングラボの設置や、地域資源を総動員したプラットフォームの構築、人間の主観性や偏見を排除する AI の活用が求められる。長野県塩尻市では、大量のデータを AI で解析し、総合計画を策定する取り組みが進行中である。

藤田氏は「AI/トランプ時代の地域を考える」と題し、AI時代の到来が中間層労働者の雇用喪失を招き、トランプ政権がその支持層を取り込んでいる現状を分析する。この状況が分断時代の抑制につながるか否かが問われる。他方、アメリカと中国の間でAI覇権争いが進行している。中国は社会主義国家としてAIを活用した近未来型産業構造を構築しつつあり、20世紀に確立された民主主義原理の破綻が示唆される。アメリカ、ロシア、中国がサステイナブルな取り組みを放棄し、産業推進を優先した場合、グローバル市場への影響が懸念される。サステイナブルな取り組みが単なる理想論に終わる可能性も指摘される。

17:15-18:30 (Hall D7-1F)

共創の“その先”へ：多様なプレイヤーの連携をインパクトにつなげるには？

今津 秀紀 株式会社 Sinc 統合思考研究所 客員研究員

川瀬 広樹 日本特殊陶業株式会社 エネルギー事業本部カーボンリサイクル開発部カーボンデザイン課 課長

平埜 雄大 武田薬品工業株式会社 グループマネジャー

村野 修二 三菱地所株式会社 丸の内開発部 ユニットリーダー

諸井 眞太郎 TOPPAN デジタル株式会社 事業開発センター LOGINECT 事業開発部部長



企業、自治体、研究機関、地域社会など、立場を超えた共創が新たな可能性を生み出している。しかし、真に社会を変えるインパクトを生むためには、共創をいかに成長させるかが問われる。挑戦を続けるリーダーたちは、ビジョンを実現し、共創を加速させるための具体的アプローチを提示した。一方で、補助金の終了に伴い消えていく事業やプレイヤーの存在も課題として挙げられる。

共創における成功と失敗の例から、利害の不一致によるトラブルが発生することが示されている。信頼とコミュニケーションを基盤に、理念の共有化が重要であり、特に行政マイノリティの差異が大きな課題となる。また、行動力と実施力が、共創の第一歩を踏み出す上で求められる。共創における失敗は、次回への糧となり、信頼関係を強化するものと捉えられる。武田薬品工業は、薬品会社という既成概念を超え、サステイナブルな取り組みを推進している。薬が届かない離島に対して、ドローン会社や大学、自治体と共創し課題解決を図る。また、オンライン診療を提供し、処方薬を届けるまでの一貫した事業を展開している。株式会社三菱地所は、知識を持つ人々が集うコミュニティ拠点を創出している。丸の内から出る食料残渣を液体肥料に変え、徳島県上勝町で資源循環型クラフトビールの生産を行う

など、サステイナブル・ビジネスソリューションの拠点づくりを推進している。

TOPPAN デジタル株式会社は、物流に焦点を当て、2030年に予測される物流需要ギャップ 34.1%への対策として、物流を経営課題として捉えるアプローチを進めている。企業間の共創配送やロジスティクス開発を実現し、信頼と共感、そしてリーダーシップの重要性を提唱する。

日本特殊陶業株式会社は、自動車等のセラミック部品を製造する企業として、工場排出の二酸化炭素を回収し、エネルギー循環を図るシステムを構築している。この二酸化炭素をコンクリートに活用する建設事業を展開している。また、カゴメ株式会社との共創により、蒲郡市のハウス栽培にボイラーから回収した二酸化炭素を活用する循環型農業を実現している。

Day2

3/19 (水) 東京国際フォーラム

10:00-12:00 (Hall B5-1)

第7回 未来まちづくりフォーラム Plenaries

オープニングトーク①

岸田 里佳子 内閣府地方創生推進事務局内閣審議官

7800を超える団体や企業が加盟する「SDGs」プラットフォームが発足から10年を迎えた。地方創生2.0においては、現場レベルでのつながりを強化しながら、さらなる取り組みの深化が求められる。本フォーラムでは、さまざまなステークホルダーが連携し、新たな横のつながりを形成することで、地方創生のさらなる拡充が期待される。

オープニングトーク②水素社会実現に向けた山梨県の挑戦

長崎 幸太郎 山梨県知事

山梨県は、最先端技術を活用した山梨発のパワー・トゥー・ガス (P2G) システムを国内外に展開し、グリーン水素分野のトップランナーとして注目を集めている。国内のみならず、米国、インド、スコットランドをはじめとする海外からも極めて高い関心と期待を寄せられている。

また、山梨県は将来の水素社会を見据えたビジョン策定や国際的なルールメイキングにおいてリーダーシップを発揮し、議論に積極的に参画している。持続可能な脱炭素社会の実現および2050年カーボンニュートラルの達成を目指し、水素社会推進法の成立などを通じて、グリーン水素をエネルギーのキーシステムとして位置づけ、さらなる普及と拡大が期待さ

れている。

米倉山エリアを中心に、水素の製造、運搬、活用を含む地域内循環モデルが展開されている。この受け皿として、サントリー、地元スーパー、東京ビッグサイトなどの主体が参画している。また、富士ハイドロジェンバレイ構想コンソーシアムでは、グリーン水素で稼働するモビリティを導入し、リニア駅から富士山五合目までの移動手段を提供するとともに、水素バンクや地域循環システムの構築を目指している。

キーノートトーク①まちの総合力を高める～市民ひとりひとりの最大幸福を目指して
大森 雅夫 岡山市長

岡山 ESD 推進協議会が設立され、子供をはじめとする市民への教育が進められている。また、取り組み意識が高い企業にはアワードが授与されるなど、地域全体での意識向上が図られている。

キーノートトーク②ポスト SDGs 時代のウェルビーイングと地方活性化
笹谷 秀光 未来まちづくりフォーラム 実行委員長 千葉商科大学

ポスト SDGs 時代を迎え、次のステージではウェルビーイングと持続的な経済成長が重要なテーマとなっている。未来社会を築くためには、地方の活性化だけでなく、都市が果たす役割も大きく、これらを統合的に捉える必要がある。社会的、経済的、環境的な視点を融合したアプローチにより、各地域が連携して持続可能な社会とウェルビーイングを実現することが可能である。本議論では、ポスト SDGs 時代の「SDGs 未来都市」から得られた成果を踏まえつつ、持続可能な発展と経済成長の具体的な実現方法が議論された。

また、無形文化遺産に注目し、世界に通じる地方創生の構築を目指す中で、「農」を日本のサステナブルなコンテンツとして再評価する必要性が示された。「センス・オブ・プレイス」、すなわち「特別と感じさせる力」が何であるかを見極めることが鍵となる。さらに、産・官・学・金（金融）・労・言（メディア）の協業が不可欠であり、稼ぐ力、すなわち持続可能な事業構築の能力が必要なポイントとして強調された。

キーノートトーク③エシックス経営の時代
名和 高司 京都先端科学大学教授 一橋大学ビジネススクール客員教授

エシックスの時代において、安心できる独自の価値を有する（例：世界遺産）ことが、世界に発信可能な価値世界一となった理由として挙げられる。日本人は経営において高い倫理観（エシックス）を持ち、パーパス経営からプラクティス（実践）経営への転換を果たした。この考え方は、まさに SDGs と一致するものである。

例えば、アメリカのディズニーは「5 KEYS」を掲げ、京セラでは「リーダーの役割 10 箇条」を示すなど、プリンシパル（原則）の重要性が認識されている。日本的な精神、すなわちエシックスは、今後の世界的潮流となり、新たなビジネスモデルの構築につながる可能性がある。観光、商品、サービスといった分野で、安全から安心へ、ランドエスケープからマインドエスケープへと価値をシフトさせることが求められる。

さらに、日本古来の安心・安全を独自（ガラパゴス）的に進化させることが、最先端技術や AI を中心に世界に対する新たな価値の創出となるのではないだろうか。

人財とは、「考え方 × 熱意 × 能力」であり、能力は後から追いついてくる要素であるとされる（稲盛和夫の考え方）。

11:00~12:00

パネルディスカッション

ポスト SDGs 時代におけるウェルビーイングと地方活性化: 持続可能な未来社会のための課題と連携戦略

笹谷 秀光 未来まちづくりフォーラム 実行委員長 千葉商科大学

杉島 理一郎 入間市長

青山 佳世 フリーアナウンサー

長谷川 知子 一般社団法人日本経済団体連合会



ポスト SDGs 時代における社会的、経済的、環境的な課題について議論が行われた。特に、ウェルビーイングの向上と地方活性化を実現するために、関係者がどのように連携し、持続可能な社会を築くかが焦点となった。また、D&I（ダイバーシティ & インクルージョン）やジェンダー平等といった重要課題にも触れ、持続可能な経済成長と包摂的な社会構築を目指すための革新的な政策や取り組みが議論された。

入間市では、2030 年のあるべき姿を明確にし、それに基づく実践が進められている。交通とヘルスケア事業においては、社会課題であるフレイル予防を目的に、健康数値の向上を目指した「ながらリハビリ」が導入されている。特に男性向けには、ゲーム性の高いイベントを通じて町に出る機会を増やすゲーミフィケーションの手法が採用されている。また、SDGs を目的とした新たな交通事業が展開され、既存の交通事業者の枠を超えた取り組みが進行中である。

さらに、入間市では新電力会社を設立し、自ら生産した電力（太陽光やバイオマス）を取り扱うモデルを構築している。この新電力会社には 6 つの金融機関が出資し、利益は株主還

元ではなく市民還元に充てられる仕組みとなっている。

経団連はポスト SDGs について、Society4.0（情報社会）から Society5.0（創造社会）への移行を掲げている。Beyond SDGs プラットフォームにおいて、国連が設定した目標のうち達成率は 17%に留まり、30%は維持または後退していると指摘されている。この課題に対応するためには、サステナブルファイナンスの充実が不可欠であり、4.2 兆米ドルの資金不足が課題として挙げられている。

また、アメリカのトランプ政権の行方が、これらの取り組みに与える影響についても注目されている。

12:30-13:15(Hall B5-2)

生物多様性と水の未来：ネクサス・アプローチによる解決策

柴田 学 boost technologies 株式会社 CSuO

瀬田 玄通 サントリーホールディングス株式会社サステナビリティ経営推進本部 部長

向山 雅之 株式会社竹中工務店 設計本部 アドバンストデザイン部 ランドスケープグループ グループ長

2024 年 12 月に IPBES「ネクサス評価」報告書が発表された。そこでは、生物多様性、水、食料、健康、気候変動の要素間のシナジーとトレードオフが 6 つのシナリオを用いて明らかにされている。我々生物が生きていくために必要な水の視点から、企業が進めている生物多様性と水資源の持続可能性を高める取り組みの先進事例を共有し、企業がとり得るネクサス・アプローチについて議論された。

13:45-15:00(Hall E1-1)

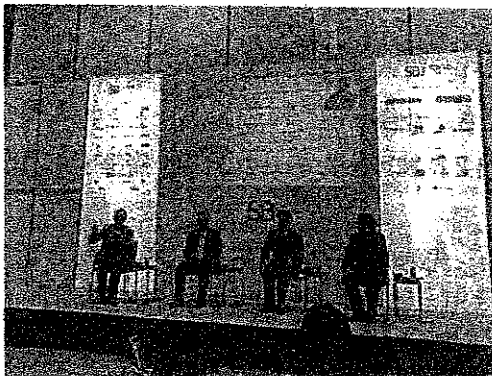
ストック・シェアリングによる新たな街とコミュニティづくり

高松 平藏 ドイツ在住ジャーナリスト

石川 貴之 株式会社日建設計 イノベーションデザインセンター 執行役員

関谷 岳久 日本航空株式会社 関係・つながり創造部 部長

千葉 健司 イロハクラフト代表



欧州では、街やコミュニティにおいて、空間・時間・人・ノウハウといったストックを共有することで、地域課題の解決や価値創造を行う事例が数多く見られる。日本においては、「ストック・シェアリング」（空間・人・時間を活用する名古屋大学の研究プロジェクトから生まれた概念）の現状と課題について議論が行われた。千葉氏は、荏崎市商店街に位置する「アメリカ

ヤ」の取り組みを紹介。アイスボンボンキャンデーの爆発的ヒットを経て、老朽化したビルをリノベーションし、SNS を通じて市民が参加するセルフリノベーションを実施。現在、この建物は待合室、カフェ、DIY 専門店、コワーキングスペース、古レコード店などとして活用されており、移住者や定住者がこれらの物件を拠点に起業する事例が生まれている。特に古民家暮らしへの憧れが移住動機となっている。

関谷氏は、日本航空（JAL）として「人流の創出」と「関わりを高める」地方創生への取り組みを解説した。香川県三豊市では、ローカルスタートアップの拠点として若い移住者が増加しており、地域内で資金や固定資産情報を共有することで資金循環が活性化している点を強調。また、不動産価値の低さが投資のしやすさにつながり、地域ビジネスの発展が進んでいる。与論島では、自然資産や文化資産を保全するための財源づくりを支援し、サステイナブルツーリズムを推進している。

石川氏は、建築設計事務所 PYN T が実践する共創の場づくりについて言及。設計事務所が地方創生に関与する背景には、従来のビジネスの在り方を根本から変える必要があると述べる。建築設計は最終手段であり、それ以前の課題解決に努めることが重要とし、個人の情熱を組織のミッションに変え、社会にインパクトを与えることを理念として掲げる。さらに、渋谷区立北谷公園の PFI 事業を通じて、運営を担う中で見えてくる設計の新たな可能性について述べた。

15:30-16:45(Hall B5-1)

第7回 未来まちづくりフォーラム②

社会価値と事業性が交わる未来のまち ～共創で切り開く持続可能な地域～

小寺 徹 一般社団法人 CSV 開発機構 専務理事

高津 尚子 日本製紙クレシア株式会社 マーケティング総合企画本部 取締役

藤井 亮 株式会社熊谷組 新事業開発本部 新事業企画推進部 新事業創出プロジェクト推進グループ グループ課長

山本 圭一 株式会社 NTT アクア 代表取締役社長 NTT コミュニケーションズ株式会社 ソリューションコンサルティング部 地域協創推進部門 担当部長

事業価値をどのように成立させるか、またマイケル・ポーターが提唱した CSV (Creating Shared Value) をどのように効果的に回転させるかについて議論が行われた。要は、地域内資金循環を含むマネタイズの必要性が問われている。社会課題を単なるコストと捉えるのではなく、成長の機会へと転換し、社会価値の創出と持続可能な事業モデルを構築する方法が検討された。

山本氏は、NTT アクアの陸上養殖事業を紹介した。先進的なろ過技術と NTT の ICT を活用したビジネスモデルにより、遠隔指導やデータ活用を通じて陸上養殖を実現。この産業は海に出る必要がないため、地域における新たな産業構造の創出と女性雇用の促進が可能と

なった。

藤井氏は、熊谷組の微細藻類を活用したアクアポニックス事業を説明した。同じ水環境で魚と野菜を育てる完全循環型事業を佐賀市で展開し、魚の養殖後にはモヒートミントの水耕栽培へと利用を拡大している。また、ホワイトバイオ（エネルギー）、グリーンバイオ（食料）、レッドバイオ（化粧品・ユーグレナ）といった多分野において、自治体や大学、事業者による藻類アライアンスを形成。これにより一次産業をマーケットイン化し、新たな産業の支援を進めている。

高津氏は、日本製紙グループの川上から川下への取り組みについて述べた。古紙回収率は85%だが、ティッシュの空箱が多くゴミとして処分されている現状を指摘。草加市の日本製紙クレシア工場と連携し、小中学校を通じて牛乳パックやティッシュボックスを回収し、トイレットペーパーとして学校に還元するモデルを構築している。現在、ほとんどの公共施設での回収が進行中で、地域事業者との協業が課題として挙げられる。資源ごみの回収を単なる収益化の手段とするのではなく、地域課題へのコミットメントに繋げる取り組みの重要性を強調した。また、市民や子どもたちがSDGsを単なるスローガンとして捉えるのではなく、具体的な実践として理解できるよう、可視化することの重要性を指摘した。

小寺氏は、地域におけるローカルスタートアップの事例を挙げ、自治体との課題解決や連携について言及。地元事業者とSPC（特定目的会社）を組成する重要性を強調する一方で、自治体職員のマインドセットや知識不足が課題となっていると指摘。補助金対応に留まるのではなく、10年先を見据えた伴走が求められる。また、行政・住民・企業の課題が一致しない場合でも、新たな産業の創出やチャレンジが共感を生む可能性を示した。ステークホルダー探しにおいては、自治体の看板と橋渡しの役割が極めて有効であると述べた。

17:15-18:30(Hall D7)

フードテックが挑む社会課題 — 持続可能な生産・流通・管理

大野 泰敬 株式会社スペックホルダー 代表取締役社長

大原 忠裕 株式会社デンソー フードバリューチェーン事業推進部 事業部長

須田 和人ソフトバンク株式会社 IT 統括 IT&アーキテクト本部 アドバンスドテクノロジー推進室 室長

針谷 綾子 日本製紙株式会社 バイオマスマテリアル・コミュニケーションセンター センター長代理

世界の食料供給は、人口増加、環境変化、資源の制約といった複雑な課題に直面している。このような状況下で、フードテックは生産・流通・管理の各領域に変革をもたらし、持続可能なフードシステムの構築に向けた重要な鍵となっている。本セッションでは、業界をリードする企業の取り組みを通じて、フードテックが食の未来をどのように再定義し、ビジネスに新たな価値を創出するのかについて議論が行われた。

ソフトバンクは、AI とデータを活用して畜産や養殖の最適化を推進するとともに、サプライチェーンの可視化と生産性向上を目指す取り組みを進めている。日本製紙は、木資源由来の飼料「元気森森」や食品添加物「セレンピア」を用いて、資源循環型の新たな食品産業モデルを構築している。デンソーは、スマート農業技術と高度な食流通ソリューションを組み合わせ、フードバリューチェーン全体の効率化と安定化に取り組んでいる。

本セッションでは、これらのテクノロジーが市場環境に与える影響、持続可能なフードシステムの実現に向けた戦略、データと自動化の活用による競争優位性、そして企業間コラボレーションがもたらす業界変革の可能性について議論が交わされた。フードテックが示す次なる成長と可能性が浮き彫りとなった。

和歌山市議会
Wakayama City Council

戸田 正人

MASATO TODA

9:45-12:05 P-1
Day1 Plenaries

13:45-15:00 BS1-12

サーキュラーエコノミーに向けて、企業には

15:30-16:45 BS1-25 BS1-25 (Hall E1-)
地域デザイン学会セッション17:15-18:30 BS1-35 BS1-35 (Hall D7)
共創の“その先”へ：多様なプレイヤーの連

Networking Reception @ Activation Hub

@東京国際フォーラム E1ホール/TIF E1 Hall

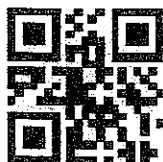
18:45よりネットワーキングレセプションを開始します。

The networking reception will begin at 18:45

セッションの評価・コメント、
全体アンケートのご協力をお願いします和歌山市議会
Wakayama City Council

戸田 正人

MASATO TODA

10:00-12:00 P-3 BS BS-1 (Hall B7)
第7回 未来まちづくりフォーラム Ple12:30-13:15 LS2-01 Hall BS2-Hall (Hall D7)
サステナビリティを自分ごと化するには13:45-15:00 BS2-13 Hall BS-2
ストック・シェアリングによる新たな街とコ15:30-16:45 MM2-2 Hall E1-1
第7回 未来まちづくりフォーラム② Hall BS-117:15-18:30 BS2-31 Hall B7
リジェネレーションの鍵：次世代エネルギー

テーマ別懇親会『SB BoF(Birds Of A Feather)』

丸の内5カ所で19:00より開催！定員50名・整理券制

整理券配布：19日 13:10～ @Activation Hub出口付近 ギフトラウンジ

Held at five locations in Marunouchi from 19:00 on (3/19)!

Capacity: 50 per BoF (admission by ticket).

セッションの評価・コメント、
全体アンケートのご協力をお願いします

About

SB国際会議について



サステナブル・ブランドは、日本での8年間の活動を経てサステナビリティに関与するリーダーが集うコミュニティとして独自のポジションを築き、成長してきました。

今では米国と同規模の、参加者約5,000人のコミュニティ・カンファレンスです。

OUTLINE

開催概要

会期	2025年3月18日(火)・19日(水)※2日間開催
会場	東京国際フォーラム・明治安田ヴィレージ 丸の内
参加者数	5,000名(予定)
開催内容	セッション、ワークショップ、ネットワーキング企画 など
参加費	有料(事前登録制)
主催	株式会社博展 / Sustainable Brands, PBC. (本社:米国)
協賛	スポンサー・パートナー企業各社
特別協力	公益財団法人東京観光財団

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	G11- /

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 6 年 12 月 23 日

支 出 額

7,000 円 (按分率)

支出内容

済南市政協商會議主席一行
レセプション参加費

備 考

領収証

No.

茎 本 和 己 様 R. 6 年 12 月 3 日

金 額

¥ 7 0 0 0 -

但 ☒ 済南市政協商會議主席一行レセプションとして
☐ 飲食料品等(軽減税率対象) 上記正に領収いたしました

内

8%(税込・税抜)金額 消費税額等

/

10%(税込・税抜)金額 消費税額等

¥ 7,000- / ¥ 636-

現金・カード・()

※HISAGO #778

愚庵本店

〒640-8159 和歌山市十一番丁22

TEL 073-494-7788

登録番号: T3810714856146

登録番号

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	G14-1

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 / 月 15 日

支 出 額

2,000 円 (按分率)

支出内容

会費 (子どもたちの未来と被ばくを考える会)

備 考

領 収 証		No. _____
氏 名 和 乙 様		2024年10月10日
金額 2,000		
但 会費 上記正に領収いたしました		
内 訳	子どもたちの未来と被ばくを考える会	
税抜金額	〒640-8142 和歌山市三番丁6	
消費税額 (%)	ビル4階	
税抜金額	金原法律事務所内	
消費税額 (%)	TEL 073-451-5960	
	登録番号	

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	G15-1

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
☐ 資料作成費
☐ 資料購入費
☐ 人件費
☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 1 月 15 日

支 出 額

7,600 円 (按分率)

支出内容

施設利用料、駐車場代
(和歌山市水道事業に関する勉強会)

備 考

$\yen5,000 + \yen1,000 + \yen600 + \yen500$
 $+ \yen300 + \yen200 = \yen7,600$

領収書等貼付欄

和歌山県民文化会館駐車場
TEL 073-436-1331 (大代表)

領収証

精算機 #02 A 精算No.000257
発券機 #01 発券No.018378
入庫時刻 2024年12月 2日(月) 17:39
出庫時刻 2024年12月 2日(月) 21:15
駐車時間 3:36
駐車料金 A料金 600円
=====

合 計 600円
ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ 600円
=====

ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ No.026596
支払い前残額 700円
カード支払額 600円
カード残額 100円

またのご利用をお待ちしております。

和歌山県民文化会館駐車場
TEL 073-436-1331 (大代表)

領収証

精算機 #02 A 精算No.000237
発券機 #01 発券No.018666
入庫時刻 2024年12月 4日(水) 18:10
出庫時刻 2024年12月 4日(水) 21:20
駐車時間 3:10
駐車料金 A料金 500円
=====

合 計 500円
ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ 500円
=====

ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ No.026596
支払い前残額 100円
カード支払額 100円
カード残額 0円
ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ No.029858
支払い前残額 2,200円
カード支払額 400円
カード残額 1,800円

またのご利用をお待ちしております。

和歌山県民文化会館駐車場
TEL 073-436-1331 (大代表)

領収証

精算機 #01 A 精算No.000093
発券機 #01 発券No.018852
入庫時刻 2024年12月 5日(木) 19:44
出庫時刻 2024年12月 5日(木) 21:16
駐車時間 1:32
駐車料金 A料金 300円
=====

合 計 300円
ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ 300円
=====

ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ No.029858
支払い前残額 1,800円
カード支払額 300円
カード残額 1,500円

またのご利用をお待ちしております。

和歌山県民文化会館駐車場
TEL 073-436-1331 (大代表)

領収証

精算機 #02 A 精算No.000251
発券機 #01 発券No.019889
入庫時刻 2024年12月 9日(月) 20:25
出庫時刻 2024年12月 9日(月) 21:29
駐車時間 1:04
駐車料金 A料金 200円
=====

合 計 200円
ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ 200円
=====

ﾌﾞﾘｯｸﾞｲﾄﾞｶｰﾄﾞ No.029858
支払い前残額 1,500円
カード支払額 200円
カード残額 1,300円

またのご利用をお待ちしております。

領 収 書

件 名 : 和歌山県民文化会館施設等利用料
内 容 : 会議

金 5,000 円

【適用税率10%】

上記合計額のうち10%対象額
うち消費税額

5,000 円

455 円

内 訳 : 施設利用料

5,000 円

令和 06 年 12 月 02 日

芝本和己 様

〔納入場所〕

和歌山県和歌山市小松原通1丁目1番地
一般財団法人 和歌山県文化振興財団
和歌山県民文化会館



領 収 書

件 名 : 和歌山県民文化会館施設等利用料
内 容 : 会議

金 1, 0 0 0 円

【適用税率10%】

上記合計額のうち10%対象額
うち消費税額

1,000 円
91 円

内 訳 : 施設利用料 1,000 円

令和 06 年 12 月 01 日

芝本和己 様

〔納入場所〕

和歌山県和歌山市小松原通1丁目1番地
一般財団法人 和歌山県文化振興財団
和歌山県民文化会館



政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	G16 - 1

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 2 月 25 日

支出額

8,500 円 (按分率)

支出内容

1/3 高雄市訪日団 歓迎会参加

備考

領 収 証

No. 

Data 2024年11月13日

芝本 和己

様

¥8,500

金額を訂正したものは無効です

但し ☒ 11/13高雄市訪日団の来和に伴う

歓迎会参加費 として

☐ 軽減税率対象

として

収入印紙

内訳

- ☒ 現金 ¥8,500
☐ クレジット
 軽減8%対象
 10%対象 ¥8,500

大和ハウスリアルティマネジメント株式会社
 登録番号:T9010501013251
 ダイワロイネットホテル和歌山
 和歌山市七番丁26-1 モンテ
 TEL 073-435-3333 FAX 073-428-0057

担当者



政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	G18-1

項目

☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
☐ 資料作成費
☐ 資料購入費
☐ 人件費
☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 3 月 27 日

支出額

2,700 円 (按分率)

支出内容

施設利用料・駐車場
 ¥2,000 + ¥400 + ¥300 = ¥2,700

備考

和歌山県民文化会館駐車場
 TEL 073-436-1331 (大代表)

領収証

精算機 #02 A 精算No.000238
 発券機 #01 発券No.040027
 入庫時刻 2025年 3月19日(水) 18:06
 出庫時刻 2025年 3月19日(水) 20:20
 駐車時間 2:14
 駐車料金 A料金 400円
 =====
 合 計 400円
 プリペイドカード 400円
 =====
 プリペイドカード No.027492
 支払い前残額 1,500円
 カード支払額 400円
 カード残額 1,100円

またのご利用をお待ちしております。

動物愛護についての
勉強会

和歌山県民文化会館駐車場
 TEL 073-436-1331 (大代表)

領収証

精算機 #02 A 精算No.000202
 発券機 #01 発券No.040560
 入庫時刻 2025年 3月21日(金) 17:47
 出庫時刻 2025年 3月21日(金) 19:18
 駐車時間 1:31
 駐車料金 A料金 300円
 =====
 合 計 300円
 プリペイドカード 300円
 =====
 プリペイドカード No.027492
 支払い前残額 1,100円
 カード支払額 300円
 カード残額 800円

またのご利用をお待ちしております。

ゴミ処理施設についての
勉強会

領 収 書

件 名 : 和歌山県民文化会館施設等利用料
内 容 : 勉強会

金 2, 0 0 0 円

【適用税率10%】
上記合計額のうち10%対象額 2,000 円
うち消費税額 182 円

内 訳 : 施設利用料 2,000 円

令和 07 年 03 月 19 日

芝本和己 様

〔納入場所〕

和歌山県和歌山市小松原通 1 丁目 1 番地
一般財団法人 和歌山県文化振興財団
和歌山県民文化会館



政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	G20-1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 4 月 11 日

支出額

118,400 円 (按分率)

支出内容

旅費(10/9-31 東京・大阪)受講料・書籍
 $\yen85,760 + \yen30,000 + \yen440 + \yen2,200 = \yen118,400$

備考 ※旅費請求内訳書 別紙添付



自動
サービス
コーナー

ご利用明細票

お取扱日	取引店番/機番
06-10-18	234/12 I
金融機関コード/カード番号/G-照/番/号	
お取引内容	
振込	お取引金額
	¥30,000
おつり	(手数料(含消費税) ¥440)
1万円 6千円 2千円 1千円	硬貨 円
10:20 口座残高	
三井住友銀行	
麹町支店	
普通 通	
チダイギ カイセイサクガ ツカイ タ	
イヒヨウ カタオカ コ 様	

暗証番号の
おなかい
生年月日や電話番号など他人が知り
得る番号を暗証番号に使用されている
お客様は、速やかに変更ください。
＜暗証番号はATMで簡単に変更いただけます＞

ハモト・カズキ 様

お名前

整理番号

G20 - 1

領収書等貼付欄

領 収 証

芝本 和己

様

No.

金額

¥ 2200 -

内 訳

現 金

小 切 手

手 形

但書欄にて(内田聖子野山デモクレーン)

2024年10月30日 上記正に領収いたしました

消費税額等(10%) ¥200 -

消費税額等(%)

株式会社 地 平 社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目32 白石ビル2階

Tel 03-6260-5480 Fax 03-6260-5482

登録番号: T7010001241585

登録番号

収入印紙

BF055224

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 東京都、大阪市(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 自 10月29日 至 10月31日		日 数 2泊3日	
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃			船 航 空 賃	車 賃 実費又は定額	日 当	宿 泊 料	摘 要
			運 賃	特 別 料 両	車 金 急 行 料					
	和歌山市 - 東京都	628.7	8,810	1,300 5,400	1,200 5,280					人事課計算 (25-0007) 合計 ¥ 85,760 円
	東京都 - 大阪市	557.4	8,810 240	5,400	5,280					
	大阪市 - 和歌山市	67.5	240 900							
計		1,253.6	19,000	12,100	11,760	-	-			
航空機利用区間						公用車等利用区間				
請 求 書 下記のとおり請求します。 令和 7年 月 日 創和クラブ 代表者 中村 元彦 様										
所 属	等級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印	
議 員	市長級	42,860			C2+(F1*3)	85,760	芝本 和己			
					42,900					
計		42,860 円	- 円	- 円	42,900 円	85,760 円	1 人			

整理番号	G20 - 1
------	---------

令和 6 年 11 月 5 日

活動報告書

報告者名 芝本和己

下記の通り、報告します。

日 時	令和 6 年 10 月 29 日 ~ 令和 6 年 10 月 31 日 (2 泊 3 日)
場 所	東京・大阪
目 的	
内 容	別紙記載

令和6年10月29日及び、30日、東京都内の会場において自治体議会政策学会主催の特別講座に参加した。

「誰もが通える学校づくり」では大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子氏にお越し頂き、非常に熱のこもった、子ども達に寄り添った「地域も変わる教育」についてお話を伺った。

「自治を担う条例づくり」では立法分権時代の議会の在り方について、また、条例制定権のポイントについて伺った。

「地域経済の活性と地域通貨」については現状と課題について事例を元にお話を伺った。地域通貨の概念、取り組みからは相当、年月が経ち、現状、その取り組みを活かしてまちづくりをできているところは少ないのが現状ではあるが、その可能性について。

「民主主義と自治を深化させるためのDXとは」では先進事例と議論のポイントについてお話を伺った。

DXを進めるにあたり必要なのは財源だが、上手く国の財源を使っている取り組みが進んでいる自治体は少ない。

一方、都市によっては率先してDX化を進め効率化を図っているところもあり、その必要性和財源確保、それによる効果、成果について話を伺う事ができた。

東京での研修他を終了後、大阪まで戻り市内で宿泊。翌 31 日木曜日は大阪天保山で行われた大阪総領事館主催の中国映画週間開幕式に出席し、18 時までの和歌山市に戻る。

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	G21-1

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 4 月 11 日

支 出 額

97,520 円 (按分率)

支出内容

旅費(1/28-29 東京)・受講料

¥67,080 + ¥30,000 + ¥440 = ¥97,520

備 考 ※旅費請求内訳書 別紙添付



ご利用明細票

お 取 扱 日	取引店番/機番
07-01-21	234/12 I
お 取 引 内 容	
振込	お 取 引 金 額
	¥30,000
おつり	手数料(含消費税)
	¥440
1万円 5千円 2千円 1千円 硬貨 円	
13:29 口座残高	
三井住友銀行	
麹町支店	
普通	
シタイキ カイセイサカ ツカイ タ	
シヒヨウ カタオカ コ 様	

暗証番号の
 おねがい
 生年月日や電話番号など他人が知り得る番号を暗証番号に使用されているお客様は、速やかにご変更ください。
 <暗証番号はATMで簡単に変更いただけます>

シハモト カズキ 様

お預け

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 東京都(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 1月28日 1月29日		日 数 1泊2日		
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃 運 賃	特 別 料 面	車 賃 料 金	急 行 料	船 航 空 賃	車 賃 実 費 又 は 定 額	日 当	宿 泊 料	摘 要
											定額表利用 A1451
計		0.0	-	-	-	-	-	-			合計 ¥ 67,080 円
航空機利用区間						公用車等利用区間					
請 求 書 下記のとおり請求します。 令和 7年 月 日 創和クラブ 代表者 中村 元彦 様											
所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印		
議 員	市長級	-			A1451 C1+(F1*2)	67,080	芝本 和己				
					43,980						
					23,100						
計		- 円	- 円	- 円	67,080 円	67,080 円	1 人				

整理番号

G21-1

令和 7 年 2 月 / 日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

報告者名 芝本和己

下記の通り、報告します。

日 時	令和 7 年 / 月 28 日 ~ 令和 7 年 / 月 29 日 (/ 泊 2 日)
場 所	東京
目 的	自治政策特別講座 参加の為.
内 容	別紙参照.

令和7年1月28日及び、29日、東京都内の会場において自治体議会政策学会主催の特別講座に参加した。

「徹底解説！基礎から学ぶ予算審議」では決算シートを用いての決算の見方、自治体財政の主な決定要素、地方財政普通会計歳入歳出等をベースに、予算の内訳について詳しく話を伺う機会となった。

「社会的孤立と地域・自治体の課題」では「私たちは何をすべきか」を中心に現在の様々な問題、課題について深掘りすると共に具体案について協議する機会となった。

「地域の未来予想図」では人口・環境など予測データ「未来カルテ」を使った逆算の政策づくりについて学んだ。いわゆる「バックキャストिंग」的な考えで、これまでの予算の組み方とまったく違う見方であり、その内容は全国で取り入れるべき手法であるものであった。

「気兼ねなくお出かけできる地域づくり」では自治体の適切な認識と具体的な行動が急務であるとして問題、課題の抽出、対策の案が多く示された。

この講座では4つのカテゴリーで多くの事を学ぶ機会となった。

これまでも多くの研修に参加してきたが時宜を得た取り組み、国の施策をいち早く学び対応する為、自治体議会政策学会のような研修にはなるべく参加をしていきたい。

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	H 8 - 1

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
☐ 資料作成費
☐ 資料購入費
☐ 人件費
☐ 事務所費

支出年月日

令和 6 年 10 月 16 日

支出額

2,275 円 (按分率 %)
 1

支出内容

会費 (紀の国被害者支援センター)

備考 2,000 + 275 = 2,275



自動
サービス
コーナー

ご利用明細票

お取扱日 06-10-16		取引店番/機番 234/09		I
お取引内容 振込				
お取引金額 ¥2,000				
おつり 1万円 5千円 2千円 1千円 硬貨 円		手数料(含消費税) ¥275		
10:05 口座残高				
ゆうちょ銀行				
当座				
※ノクニヒカ インヤシエセンター 様				

暗証番号の
お取り扱い
生年月日や電話番号など他人が知り
得る番号を暗証番号に使用されている
お客様は、速やかに変更ください。
<暗証番号はATMで簡単に変更いただけます>

ニワ ナオコ 様

印
の
貼
付

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	K5 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 6 年 11 月 7 日

支出額

97,080 円 (按分率 %)

支出内容

旅費 (東京 10/29 ~ 30)
受講料

備考 $67,080 + 30,000 = 97,080$

No. 

領収証

発行日 2024 年 10 月 29 日

創和クラブ 中谷 謙二 様

¥30,000—

但し、第24期自治政策講座 in 東京Ⅱ受講料として
上記正に領収いたしました。

自治体議会政策学会

会長 住沢 博紀

〒112-0013

東京都文京区青羽1-5-8 イマジン第2オフィス

TEL 03-5227-1827 FAX 03-5227-1828

15-1

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 東京都(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 自 10月29日 至 10月30日		日 数 1泊2日	
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃 運 賃 特 別 料 車 金 急 行 料			船 賃 航 空 賃	車 賃 実 費 又 は 定 額	日 当	宿 泊 料	摘 要
										定額表利用 A1451
										合計
	計	0.0	-	-	-	-	-			¥ 67,080 円

航空機利用区間

公用車等利用区間

請 求 書

下記のとおり請求します。

令和 6年 月 日

創和クラブ 代表者 中村 元彦 様

所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印
議員	市長級	-			A1451 C1+(F1*2)	67,080	中谷 謙二		
					43,980				
					23,100				
計		- 円	- 円	- 円	67,080 円	67,080 円	1 人		

整理番号

K5-1

令和6年11月7日

活動報告書

創和クラブ経理責任者
芝本 和己様

報告者名 中谷 謙二

下記の通り、報告します。

日 時	令和6年10月29日～令和6年10月30日(泊2日)
場 所	都道府県会館 401会議室 (長野県代田町)
目 的	誰も取り残さない社会未来への自治体政策
内 容	10月29日(火) 13:00～14:30 「誰もか過る学校づくり」地域を変える教育とは 元大阪市立大宮小学校 校長 木村 泰子氏 子どもが自分の学校を自分がつくる保護者が自分の子どもでその学校を自分がつくる地域の人が 地域の人が学校を自分がつくる教職員が自分の協力学校を自分がつくる 卒業生が自分の未来の学校をつくる 学校は「みんなの学校」で 自分がつくる自分の学校 お父さんが当事者になることへの思いに「学校づくり」 14:50～16:20 「自治を担う条例づくり」自治分権時代の流れへ 中央大学法学部 磯崎 初仁 教授 条例づくりの2本柱は 法的検討とすることと政策的検討 両方とも互いに 効果がある 思いを条例づくり 人権の制約は必要最低限度にしなければならぬ 10月30日(水) 10:00～11:30 「地域経済の活性化と地域過疎」ー現状と課題 専修大学経済学部 泉 留雄 教授 地域過疎の導入目的は コミュニティ・社会貢献活動・地域内経済循環と大きく3つに分け る自治体を取り組んでいくが 課題が明確に設定し取り組まないと厳しいと考える。

修了証書

和歌山市議会

中谷 謙二 殿

あなたは、自治体議会政策学会の主催による、
下記の講座を修了したことを証します。

2024年 第24期 自治政策講座 in 東京Ⅱ
誰も取り残さない社会
—未来への自治体政策

講座	開催日	講座名 / 講師
第1講義	10/29 (火)	誰もが通える学校づくり —地域も変わる教育とは 木村 泰子 元大阪市立大空小学校 校長
第2講義	10/29 (火)	自治を担う条例づくり —立法分権時代の議会へ 磯崎 初仁 中央大学法学部 教授
第3講義	10/30 (水)	地域経済の活性と地域通貨 —現状と課題 泉 留維 専修大学経済学部 教授
第4講義	10/30 (水)	民主主義と自治を深化させるための自治体 DX とは —先進的事例や議論のポイント 内田 聖子 NPO 法人アジア太平洋資料センター 共同代表

令和6年10月30日

自治体議会政策学会
会長



政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	K7 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 1 月 22 日

支出額

47,690 円 (按分率 %)

支出内容

旅費 (名古屋 1/31 ~ 2/1)

備考

K7-1

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 名古屋市(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 自 1月31日 至 2月1日		日 数 1泊2日	
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃			船 空 賃 航 空 賃	車 賃 実費又は定額	日 当	宿 泊 料	摘 要
			運 賃	特 別 料 両	車 金 急 行 料					
1/31	和歌山市 → 名古屋市	262.7	4,840 240	1,300 2,800	1,200 2,740					定額表利用 A1621 合計 ¥ 47,690 円
2/1	名古屋市 → 和歌山市	262.7	240 4,840	2,800 1,300	2,740 1,200					
計		525.4	10,160	8,200	7,880	-	-			
航空機利用区間					公用車等利用区間					
請 求 書 下記のとおり請求します。 令和 7年 月 日 創和クラブ 代表者 中村 元彦 様										
所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印	
員	市長級				A1621 C1+F1+F2 26,240 21,450	47,690	中谷 謙二			
計		- 円	- 円	- 円	47,690 円	47,690 円	1 人			

整理番号

K7 - 1

令和7年2月12日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名

中谷 謙二

下記の通り、報告します。

日 時	令和7年1月31日 ~ 令和7年2月1日 (泊2日)
場 所	愛知県名古屋市中村区名駅3-12-14 今井ビル5F
目 的	研修参加
内 容	1月31日(金) 15:30 ~ 18:00 名古屋市中村区名駅3-12-14 今井ビル5F 貸し会議室イールーム名古屋名駅南A 「精神医学の真実を知ることで助けになる人がある」 講師：小倉 謙氏 和歌山市の児童、生徒も向精神薬を服薬し学校に通っている子どもが 居る。子どもの発達障害に関する精神医学の問題点、個人の健康だけ でなく、社会全体に与える影響を及ぼす。子どもの成長を支えるために、 過剰診断や薬物依存に陥る、支援体制の構築が急務であり、子どもが 本来の能力を発揮できる環境づくりを取り組む必要がある。 2月1日(土) 10:00 ~ 12:00 同会場 「自動車産業からみる今後の日本産業」 講師：AZAPPA株式会社代表取締役 CEO 近藤 泰弘氏 和歌山市にも5万人日本全体から人口減少、エネルギー変革、デジタル化といった課題 に直面している。しかしながら日本の誇る高い品質のづくりと技術の複雑性を活かして、 戦略的に強みを発揮することで、新たな競争力を生み出すことが可能となる。 今後、特長的に成長するためには、自動化を力強く推進し、エネルギーとモビリティ を融合させる新たな価値創造が不可欠という考えが本市において取り組まれていること を学ぶ。

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	1-8 - /

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 1 月 22 日

支出額

75,310 円 (按分率 %)

支出内容

旅費 (那珂市 2/6 ~ 7)
(茨城県)

備考

K8-1

旅 費 請 求 内 訳 表

旅行先 茨城県那珂市(特別職)		用務 政務活動のため					旅行期間 自 2月6日 至 2月7日		日数 1泊2日	
月日	旅行経路	路程 km	鉄道賃			船航空賃	車賃 実費又は定額	日当	宿泊料	摘要
			運賃	特別 両料	車金 急行料					
2/6	和歌山市 那珂市	708.0	9,900	1,300 5,400 2,800	1,200 5,280 1,050					人事課計算 (24-215)
2/7	那珂市 和歌山市	708.0	9,900	2,800 5,400 1,300	1,050 5,280 1,200					
計		1,416.0	19,800	19,000	15,060	-	-			合計 ¥ 75,310 円

航空機利用区間

公用車等利用区間

請 求 書

下記のとおり請求します。

令和 7年 月 日

創和クラブ 代表者 中村 元彦 様

所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印
市 長 級		53,860			C1+F1+F2	75,310	中 谷 謙 二		
員					21,450				
計		53,860 円	- 円	- 円	21,450 円	75,310 円	1 人		

整理番号

K8 - 1

令和 7 年 2 月 26 日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名

中谷 泰二

下記の通り、報告します。

日 時	令和 7 年 2 月 6 日 ~ 令和 7 年 2 月 7 日 (1 泊 2 日)
場 所	量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学研究所
目 的	地球環境に優しく安全性に優れた核融合発電は今後のエネルギー政策
内 容	自治体エネルギー計画 及び 和歌山市では再生可能エネルギーの導入を推進し、特に長い日照時間を活かした太陽光発電の普及に力を入れている。公共施設や住宅、ロードライト等や物流施設などの事業所への設置を促進し、省エネルギーも積極的に推進。また、脱炭素に向けた啓発活動やSDGs推進ネットワークの運営を通じて、オール和歌山市での取組強化を図っている。一方で、太陽光による環境破壊、電力供給の不安定さ、市民負担増などの課題もある。 将来的なエネルギーの選択肢の一つとして、核融合発電(フュージョンエネルギー)が注目されている。核融合は海水由来の燃料を使用し、二酸化炭素を排出せず、安全なエネルギー源とされる。現在、ITERプロジェクトでは日本を含む7カ国が協力し、国内では那珂フュージョン科学技術研究研究所を研究の中心と見做し、2030年の発電実証を目指している。国の最新技術も学ぶことで、今後の和歌山市のエネルギー政策についての発言を行ってまいります。

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	k9 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 2 月 13 日

支出額

3,000 円 (按分率 %)

支出内容

研修費

備考

領収証

中谷 謙二 様

¥3,000-

但し、研修費として

令和7年 1 月 31 日 上記正に領収させていただきました

大阪府吹田市垂水町1-31-22
 info.ryomapj@gmail.com
 龍馬プロジェクト全国会



政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	L10 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 6 年 11 月 19 日

支出額

97,400 円 (按分率 %)

支出内容

旅費 (盛岡市 11/22 ~ 23)

備考 ※ 旅費請求内訳表 添付。

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 盛岡市(特別職)		用 務 政務活動のため				旅 行 期 間 自 11月22日 至 11月23日		日 数 1泊2日		
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃			船 航 空 賃	車 賃 実費又は定額	日 当	宿 泊 料	摘 要
			運 賃	特 別 両 料	車 金 急 行 料					
	和歌山市 - 盛岡市	1164.0	12,670	1,300 5,400 5,400	1,200 5,280 5,900					人事課計算 (24-0189)
	盛岡市 和歌山市 -	1164.0	12,670	5,400 5,400 1,300	5,900 5,280 1,200					
計		2,328.0	25,340	24,200	24,760					合計 ¥ 97,400 円

航空機利用区間

公用車等利用区間

請 求 書

下記のとおり請求します。

令和 6年 月 日

創和クラブ 代表者 中村 元彦 様

所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印
議 員	市長級	74,300			C1+(F1*2)	97,400	浜田 真輔		
					23,100				
計		74,300 円	- 円	- 円	23,100 円	97,400 円	1 人		

整理番号

L10-1

令和 6 年 12 月 16 日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名 辻本太一 浜田真輔

下記の通り、報告します。

日 時	令和 6 年 11 月 22 日 ～ 令和 6 年 11 月 23 日 (1泊 2日)
場 所	盛岡市民文化ホール 大ホール 盛岡市盛岡駅西通二丁目 9 番 1 号
目 的	第 21 回全国藩校サミット盛岡大会に参加し、和歌山市への誘致を調査するため。
内 容	

第 21 回全国藩校サミット盛岡大会実行委員会、(一財)漢字文化振興協会主催、盛岡市、盛岡市教育委員会共催で開かれた、「第 21 回全国藩校サミット盛岡大会」に参加。

市議会からは、辻本・浜田、そして和歌山市より宮脇文化スポーツ部長 3 人で参加。

主な内容は以下の通り。

仁王小学校児童による発表

記念講演「東大よりもスゴかった?!藩校から学ぶこれからの人づくり」

講師 歴史コメンテーター 金谷 俊一郎 氏

トークセッション「将軍×殿様座談会」

徳川宗家第 19 代当主徳川家広、水戸徳川家第 15 代当主徳川斉正、南部家第 46 代当主南部利文
出席旧藩主紹介

「盛岡宣言」の発表

その他、同会場で大会前に開催された藩校活動報告会(藩校会議)にも参加。

主催者の(一財)漢字文化振興協会会長であり、水戸徳川家第 15 代当主の徳川斉正さん、
また、紀州徳川家第 19 代当主の徳川宜子さんとお話させていただく。

